

一、統一地方選挙の結果と教訓について

「政治対決の弁証法」の立場で到達点をつかむ

- ・支配勢力の攻撃といかたたたかい、どういう成長と発展の努力をはかってきたか
- ・二一年総選挙での政治的大攻勢と、激しい日本共産党攻撃とのたたかい
- ・重要な成長のプロセス、発展の契機——次の勝利を準備するもの

党の自力の問題——困難の根本的要因、この面でも「足掛かり」が

- ・党づくりが死活的な緊急課題であることが骨身にしみて痛感された
- ・党づくりの面での「今後の前進・躍進に向けた足掛かり」

今後に生かすべき選挙活動の新しい発展

- ・全国各地から『折り入って作戦』を徹底して勝ち抜けた」との報告が
- ・「声の宣伝」をはじめ元気いっばいの姿を伝える活動が、勝利の一つの決定打に
- ・ネット・SNS活用の大きな前進——この新しい鉅脈を全面的に発展させよう
- ・住民要求にこたえた地方議員の日常活動が、勝利の決定的な力に

中央の選挙指導上の反省点について

- ・「共倒れ」を絶対に起こさないイニシアチブの弱点
- ・「選挙指導の担い手」をつくる系統的なイニシアチブの弱さ

二、総選挙躍進にむけた方針について

通常国会のたたかいは何を示したか——世論と運動で包囲し、解散・総選挙に追い込もう

- ・かつて経験したことのない異常国会と、日本共産党のかけがえない役割
- ・どの問題でもたたかいはこれから——あらゆる分野で国民運動の発展を

総選挙の歴史的意義と目標について

- ・国のあり方の根本が問われる選挙——日本共産党躍進で希望を開く選挙に
- ・日本共産党の比例代表での躍進をたたかいの中軸にすえ、最優先で追求する

切実な願いと結びつけて、2つの歪みを「もとから変える」綱領的値打ちを押し出す

「こんなアメリカ言いなりの国でいいのか」——焦眉の問題とのかかわりで

- ・大軍拡の本質——日本を米国の対中国軍事戦略の最前線基地に
- ・核兵器問題——米国の核戦略にがんじがらめに縛られている屈辱的な姿
- ・9条改憲——対米従属の戦争国家づくりのあらゆる制約を取り払おうというものの戦争の準備でなく、平和の準備を——この願いは日本共産党に

「こんな財界の儲け最優先の国でいいのか」——暮らしの切実な願いとのかかわりで

- ・「大企業の内部留保課税で賃上げを」——日本共産党ならではの提案
- ・深刻な少子化——労働法制の規制緩和に正面から反対を貫く日本共産党
- ・「財界の儲けのため」が消費税の真実——減税・廃止求める日本共産党の頑張りどころ
- ・原発・大型石炭火力推進の最悪の利権政治——脱炭素、原発ゼロの日本を
- ・財源論は総選挙の大きな争点に——責任ある財源提案を示している唯一の党

「こんな人権後進国でいいのか」——2つの根を断つ民主的改革を

- ・日本社会のあらゆる分野で「人権後進国」の矛盾が噴き出している
- ・「財界の儲け最優先」の政治の歪み、戦前を美化する政治の歪みをただす

積極的支持者を増やす政治的大攻勢を——綱領と組織のあり方に対する攻撃を打ち破ろう

- ・綱領に対する攻撃を打ち破る——「はてなリーフ」（改定版）も活用して
- ・党の組織のあり方——民主集中制に対する攻撃に答える
- ・日本共産党の指導部のあり方に対する批判・攻撃に答える
- ・「なぜ共産党はこんなにバッシングされるのか」の問いに答えて

総選挙躍進に向けた独自のとりくみ

- ・比例代表で党を伸ばすことを最優先におき、それに徹するたたかいをやり抜く
- ・3つの「突破点」をしっかりと握った、新しいたたかひ方に挑戦する

三、「第29回党大会成功、総選挙躍進をめざす党勢拡大・世代的継承の大運動」のよびかけ

七中総後の党勢拡大・世代的継承の到達点について

- ・党勢の後退傾向は最大の弱点——全党の知恵と力を総結集して打開を
- ・「返事」に学び、活動の強化方向を明らかにし、ともに前途を開いていく

「大運動」のよびかけ——近年ではやったことのない党勢拡大の飛躍的なうねりを

- ・党の政治任務の実現、党の未来にとって、どうしても必要な課題
- ・「大運動」成功へ——4つの力点を握った奮闘を訴える

「どうやって「大運動」を成功させるか——「返事」に学んで法則的活動の開拓を

- ・いかにして結びつきを広げるか
- ・どうやって「入党の働きかけの日常化」をはかるか
- ・いかにして全黨員を結集し、新入黨員の成長を保障する支部活動をつくるか
- ・配達・集金の困難をどうやって打開していくか
- ・「職場支部の灯を消したくない」との思いをどう生かすか
- ・若い世代、真ん中世代の地方議員の役割について

党機関の成長・強化をはかる「大運動」に

- ・いまこそ支部と党機関の「双方向・循環型」の党活動を
- ・「大運動」のなかで、機関体制の強化を系統的にすすめるよう

ジェンダー平等、ハラスメント根絶を党活動のなかでも重視する

- ・ジェンダー平等——党内にも存在する歪みや遅れと向き合い、つねに自己変革を
- ・ハラスメント根絶——対等な仲間として尊重しあうあたたかい人間集団を

党の総力をあげて、「数万の民青」、1万の青年・学生黨員を——「特別決議」の提案

- ・いま若者のなかで大きな党と民青をつくる歴史的時期を迎えている
- ・「特別決議」を討議・具体化し、青年・学生から世代的継承をやり抜こう

党の命運がかかった歴史的時期——総選挙準備とともに「大運動」の目標総達成を